

趣味のひとつ オールディーズ

第5巻 懐かしのソロ歌手

前はポップグループを見ましたので、今回はオールディーズのソロ歌手を見てみましょう。男性と女性に分けました。ヒットチャート・ランキングは全米ヒットチャート「ビルボード誌」を参考にしています。

◆男性ソロ歌手

・1960年日本でも人気が高かったジョニー・ティロットソン (1939年生) が「ポエトリー・イン・モーション」を2位にしています。「キューティ・パイ」「プリンセス・プリンセス」や浜口庫之助作詞作曲の「涙くんさよなら」などをヒットさせました。

・1961年にニール・セダカ (1939年生) が「カレンダー・ガール」を4位にランクさせています。日本でも「おお!キャロル」「恋の片道切符」「すてきな16才」「小さい悪魔」「悲しきクラウン」「悲しき慕情」など数々のヒット曲でお馴染みですが、彼は他の歌手にも曲を提供していて、例えば、コニー・フランシスに「間抜けなキューピッド」「ボーイ・ハント」を、キャプテン&テニールに「愛ある限り」を、カーペンターズに「ソリティア」を提供しヒットさせました。「おお!キャロル」のキャロルとは当時ガール・フレンドだったキャロル・キング (1942年生) のこととは有名な話ですね。また「可愛いあの子 Next Door to an Angel」のイントロ“デュワパッパ、ポデュ、ウバッシ、ダンダン…”はザ・ダーツの「ケメ子の歌」のイントロで使われました。

同年ベン・E・キング (1939年生～2015年没) が「スタンド・バイ・ミー」(4位)をヒットさせ、少年時代のリヴァー・フェニックス (1970年生～1993年没)、ジョン・キューザック (1966年生)、キーファー・サザランド (1966年生) 等そうそうたるメンバーが出演した1986年の同名映画の主題歌に使われ、再ヒットしましたね。

・1962年にナット・キング・コール (1919年生) の「ランブリング・ローズ」が2位のヒット曲となりました。彼は他にも「モナ・リザ」「スター・ダスト」「トゥー・ヤング」やチャップリンの映画「モダンタイムズ」のエンディングで使われた「スマイル」をレコーディングしています。

・1963年にテリー・スタッフォード (1941年生) が「サスペション」を3位にランクさせました。この曲を聴いた時、エルビスが歌っていると思ったほど、歌い方が似ています。それもそのはず元々「サスペション」はエルビスの曲でした

が、シングルカットされませんでした。エルビスの「サスペション」も聞きましたが、そっくりさんのテリー・スタッフォードの方がエルビスらしく聞こえるので不思議な曲です。

・1964年にビートルズの快進撃をストップさせた曲として有名なのがレイ・アームストロング(1901年生)の「ハロー・ドリー」(1位)です。当時御年63歳、“若いもんには負けんぜよ…”の偉業でした。1968年には名曲「この素晴らしい世界」をヒットさせ健在ぶりを披露しました。

・1973年に「落ち葉のコンチェルト」を聴いた時、ジョン・レノンの新曲かと思いましたが、前年に「カリフォルニアの青い空」(5位)をヒットさせたアルバート・ハモンド(1944年生)が歌っていると知り驚きました。

◆女性ソロ歌手

・1964年にダイアン・リネイ(1946年生)の「ネイビー・ブルー」が6位になります。“東京にいる彼氏から手紙と一緒に、「歩いてお喋りする人形」のお土産が届いたの…”という歌詞があります。彼氏は米海軍横須賀基地にでも来ていたのでしょうか。テンポの良いこの曲に続き、彼女は「キス・ミー・セイラー」と言う同じネイビー系の曲を出しました。

・1965年にペトラ・クラーク(1932年生)が「恋のダウタウン」を1位にし、66年には「マイ・ラヴ」も1位にしました。彼女には他に、「地下鉄で眠らないで」などがあるイギリスを代表する歌手です。

同年、クリスマスに生まれたので、芸名にしたマージョリー・ノエル(1945年生)は「そよ風にのって」をヒットさせました。他にも「春のときめき」や日本語で歌った、鈴木邦彦作曲の「好きなのに、好きなのに」のヒット曲があります。

・1966年にナンシー・シナトラ(1940年生)の「にくい貴方」が1位になります。「シュガー・タウン」(5位)や父フランク・シナトラとのデュエット曲「恋のひとこと」(1位)などのヒット曲がありました。日本でもザ・ピーナッツが「レモンのキス Like I Do」をカバーで歌いヒットさせたことがあります。

・1968年にメアリー・ホプキン(1950年生)の「悲しき天使」が2位になりますが、同じレコード会社の先輩ビートルズの「ヘイ・ジュード」に阻まれて第1位にはなれませんでした。でも彼女の為にポール・マッカートニーが作詞作曲した「グッド・バイ」やアレンジした「ケセラ・セラ」がヒットしました。

・ソロ歌手の範疇ではありませんが、カレン・カーペンター(1950年生～1983年没)の存在も忘れてはなりません。1969年「涙の乗車券」1970年「遙かなる影」「愛のプレリュード」1971年「ふたりの誓い」「雨の日と月曜日は」「スーパースター」1972年「ハーディング・イーチ・アザー」「愛にさよならを」1973年「シング」「イエスタデイ・ワンス・モア」「トップ・オブ・ザ・ワールド」1974

年「ジャンバラヤ」「プリーズ・ミスター・ポストマン」1975年「オンリー・イエスタデイ」「ソリテア」1976年「見つめあう恋」「青春の輝き」「悲しき慕情」と次々にヒット曲を出し、彼女の歌声は今でも人々の心に生きています。兄のリチャード(1946年生)はバックコーラス専門とされていますが、「遥かなる影」のB面「愛しつづけて」では数少ないリード・ヴォーカルを披露しています。

いかがでしたか。あなたが好きだった歌手が出てきましたか。個性溢れるソロ歌手の魅力を懐かしんでいただけたと思います。次回は「キラリと光る一発屋」の特集です。

<三人ボビー>

オールディーズの三人ボビーと言え、「ミスター・ロンリー」「ブルー・ベルヴェット」「涙の紅バラ」のボビー・ヴィントン(1935年生)、「マック・ザ・ナイフ」「ビヨンド・ザ・シー」のボビー・ダーリン(1936年生)、「ラバー・ボール」「燃ゆる瞳」のボビー・ヴィー(1943年生)を指しますが、「ワイルド・ワン」「ヴォラーレ」のボビー・ライデル(1942年生)と「いとしのジュリー」「イージー・カム・イージー・ゴー」のボビー・シャーマン(1943年生)を加えて五人ボビーと呼ぶこともあります。同じ世代に同じボビーが、こんなに沢山のヒット曲を世に送り出していたとは驚きです。